



NIDS

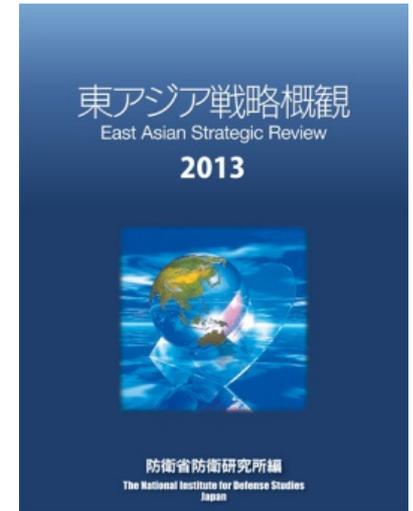
緊迫化する東アジア情勢と地域の課題
—東アジア戦略概観2013を中心に—

防衛省 防衛研究所長
高見澤 將林

2013年5月10日
経済産業研究所 BBLセミナー

『東アジア戦略概観2013』の構成

- 各章の要約
- 第1,2章 東アジア安保に影響をおよぼす課題
 - インド、オーストラリアの安全保障政策
- 第3～8章 各国・地域情勢
 - 日本、朝鮮半島、中国、東南アジア、ロシア、米国
- 解説コラム
 - 「インドのミャンマーへの関与」(32頁)、「日印パートナーシップの展開と防衛協力」(54頁)、「オーストラリアの国防白書」(70頁)、「『アジア世紀のオーストラリア』白書」(85頁)、「李明博政権の対北朝鮮政策の回顧」(147頁)、「国交樹立20年目の韓中戦略対話」(151頁)、「国防改革基本計画2012-2030」(157頁)、「中国共産党を形成する権力ピラミッド」(170頁)、「中国の衛星測位システム・北斗と宇宙開発」(190頁)、「ミャンマー少数民族と中央政府の対立」(207頁)、「米海兵隊の作戦構想とMV-22B オスプレイ」(297頁)



● 東アジア戦略概観の刊行の目的

- 防衛研究所が発行する、東アジアの安全保障情勢に関する年次報告書
- 1996年度に創刊し、今回で17回目の刊行
- 内外の一般読者や専門家に、東アジアの戦略環境や安全保障に関する重要な事象についての見解を提供し、もって地域の相互理解と信頼関係の醸成に寄与

● 東アジア戦略概観の基本的性格

- 東アジアの国・地域別に2012年の1年間を中心に生じた安全保障上重要な事象及び、安全保障を考える上で重要と思われる中・長期的な課題について分析
- 防衛研究所の研究者が独自の立場から分析したもの。政府や防衛省の見解を示すものではない
- 日本語版・英語版を作成し市販するとともに、防衛研究所ウェブサイトでも公開

● 東アジア戦略概観の意義

- 東アジアの安全保障に関わる年次報告書として定着
- 内外の大学・大学院で教材として活用
- 防衛研究所の諸外国との研究交流・教育交流のツールとして、日本の防衛交流の一翼を担う

『東アジア戦略概観2013』執筆・編集体制

➤ 執筆担当

- 第1章(インド)伊豆山真理、第2章(豪州)石原雄介、第3章(日本)佐竹知彦、第4章(朝鮮半島)阿久津博康・室岡鉄夫、第5章(中国)門間理良・杉浦康之・和田靖、第6章(東南アジア)庄司智孝、第7章(ロシア)兵頭慎治・坂口賀朗・秋本茂樹、第8章(米国)菊地茂雄・新垣拓

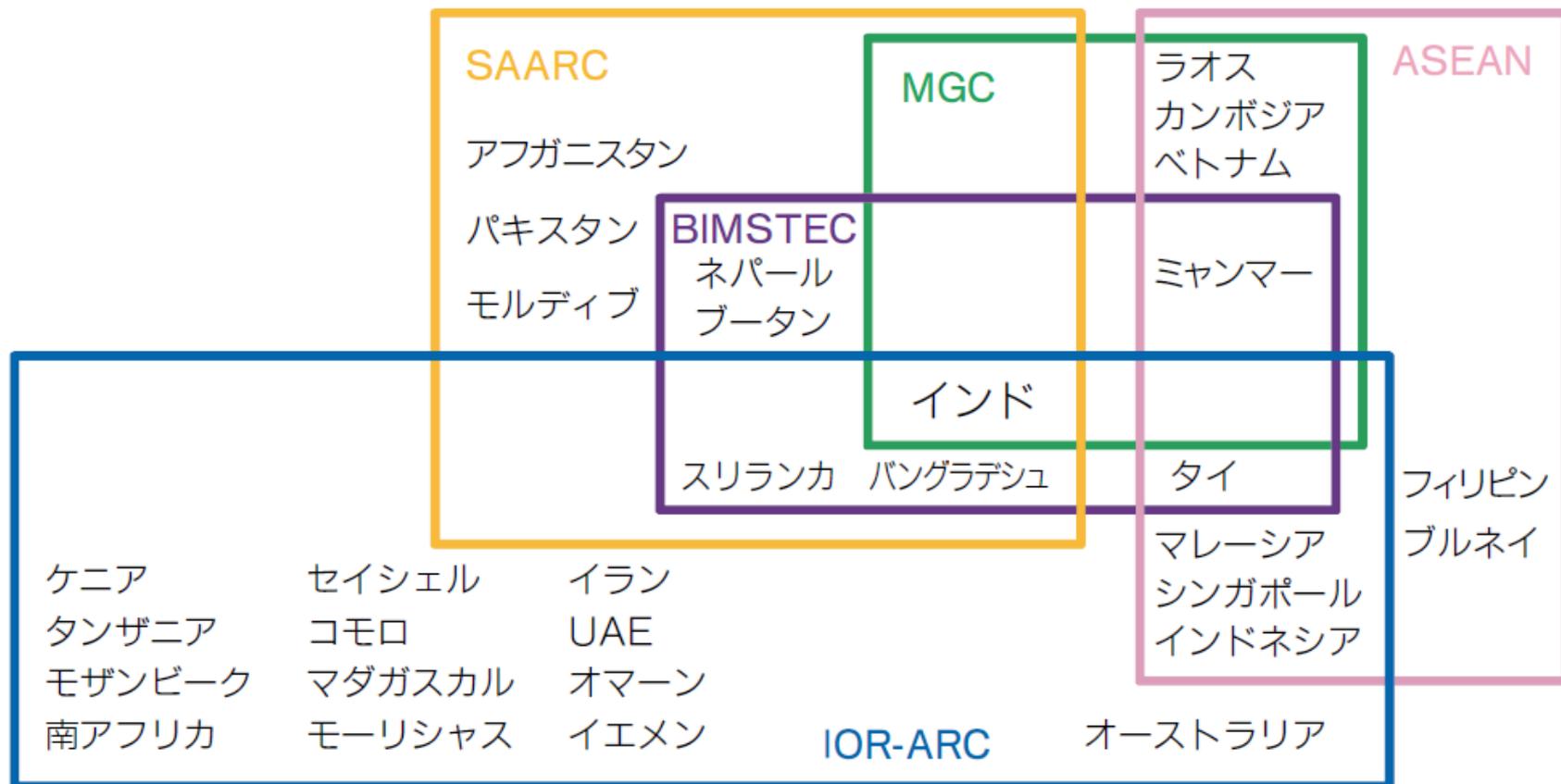
➤ 編集部

- 片原栄一(編集長)、大西健、須江秀司、福島康仁、松浦吉秀、門間理良、山添博史、和田靖

『東アジア戦略概観2013』各章の概要

- 第1章 インドの外交・安全保障政策
——地域的、グローバルな役割と影響力の増大
 - 2000年代に米国との戦略的パートナーシップ構築が進展:「同盟」への進化には否定的、むしろ戦略的自立に回帰
 - ASEAN諸国との防衛協力の特色:軍事組織間協調志向型(海軍協力など)と古典的な軍事協力志向型(装備・訓練の供与)のミックス
 - 国連PKO参加の特色:高い反乱鎮圧(COIN)能力、時宜を得た武力行使、国連マンデートの積極的解釈によるリスクの受容、PKOへの貢献について安保理常任理事国入りの材料として利用

図 1-1 南アジアと ASEAN を架橋する多国間組織 (40頁)



(出所) 執筆者作成。

(略称) ASEAN: 東南アジア諸国連合 BIMSTEC: ベンガル湾多分野技術・経済協力イニシアティブ
 IOR-ARC: 環インド洋地域協力連合 MGC: メコン・ガンガ協力 SAARC: 南アジア地域協力連合

- 第2章 オーストラリアの安全保障政策
——アジア太平洋への関与強化を目指して
 - 国防政策見直し:「戦力2030」実施の課題(国防予算の大幅削減、新型潜水艦導入計画の遅れなど)とアジア太平洋における関与の強化
 - 米豪同盟の強化:戦力態勢イニシアティブによりアジア太平洋に「共に関与する」同盟へ
 - 南太平洋、インドネシア、中国に対する広範な関与を推進
 - 日豪防衛協力の発展:第4回「2+2」会合での「ビジョン声明」と日豪関係の課題(長期的な日豪関係のあり方の検討)

図 2-2 豪軍および米豪同盟の主な態勢見直しの動き (67頁)



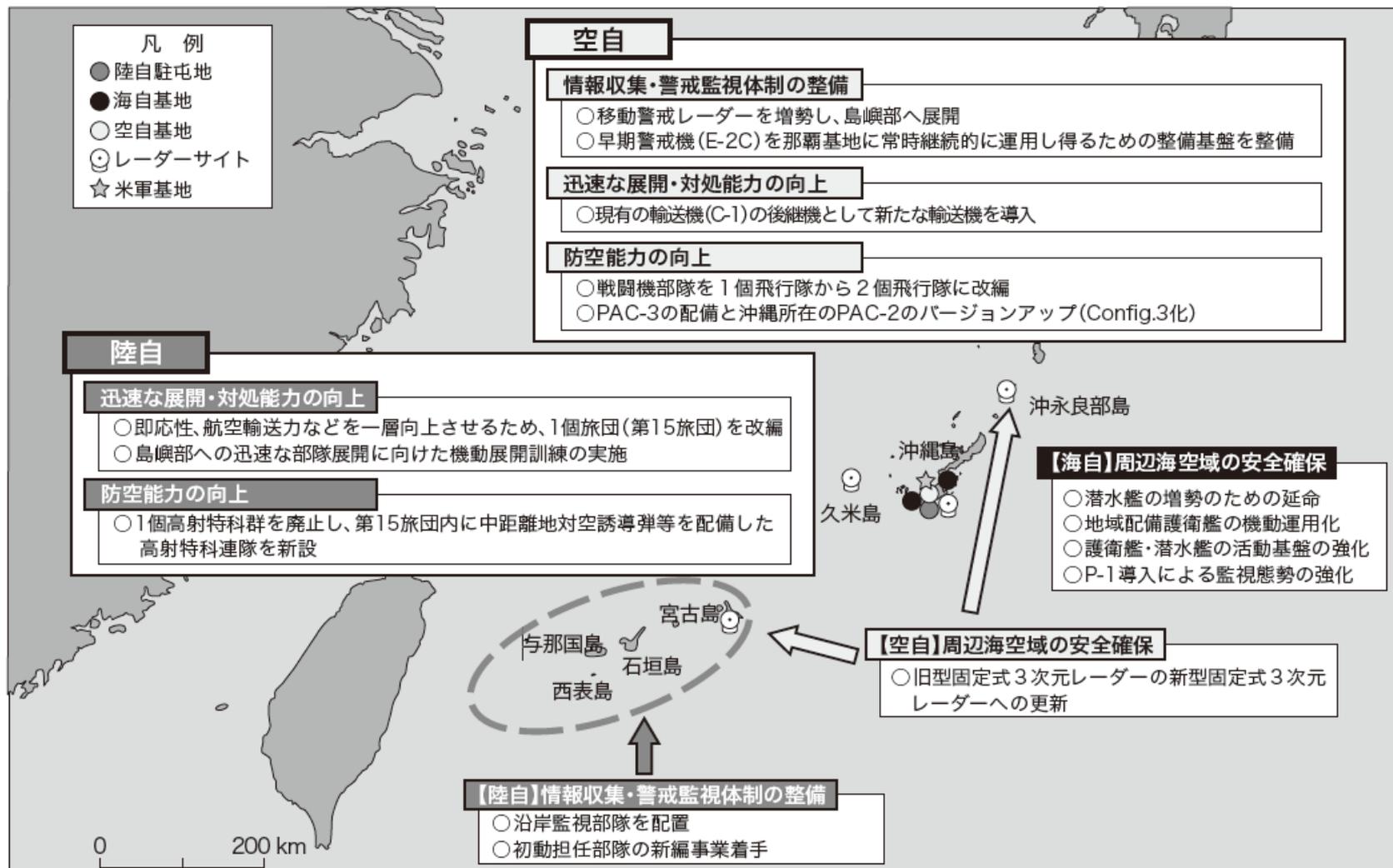
(出所) 執筆者作成。

● 第3章 日本——検証・動的防衛力

- 政権交代と防衛大綱の見直し: 22大綱で欠落していた要素の補完、情勢変化への対応
 - 南西諸島方面の防衛態勢の強化: 実効的な対処能力の強化と防空態勢の強化
 - 日米のRMC協議とガイドラインの見直し: 地域的及びグローバルな課題に向けた役割分担の検討
 - アジア太平洋における多層的な安全保障協力: 韓、豪などとの協力の深化、中国との海上連絡メカニズムの構築
 - 自衛隊のグローバルな活動: オールジャパンでの取り組み
- ✓ 「米国との統合された努力求める」(Japan Times 見出し)

(参考) 22大綱及び中期防で示された南西地域の防衛体制

図7-2 南西地域の防衛体制

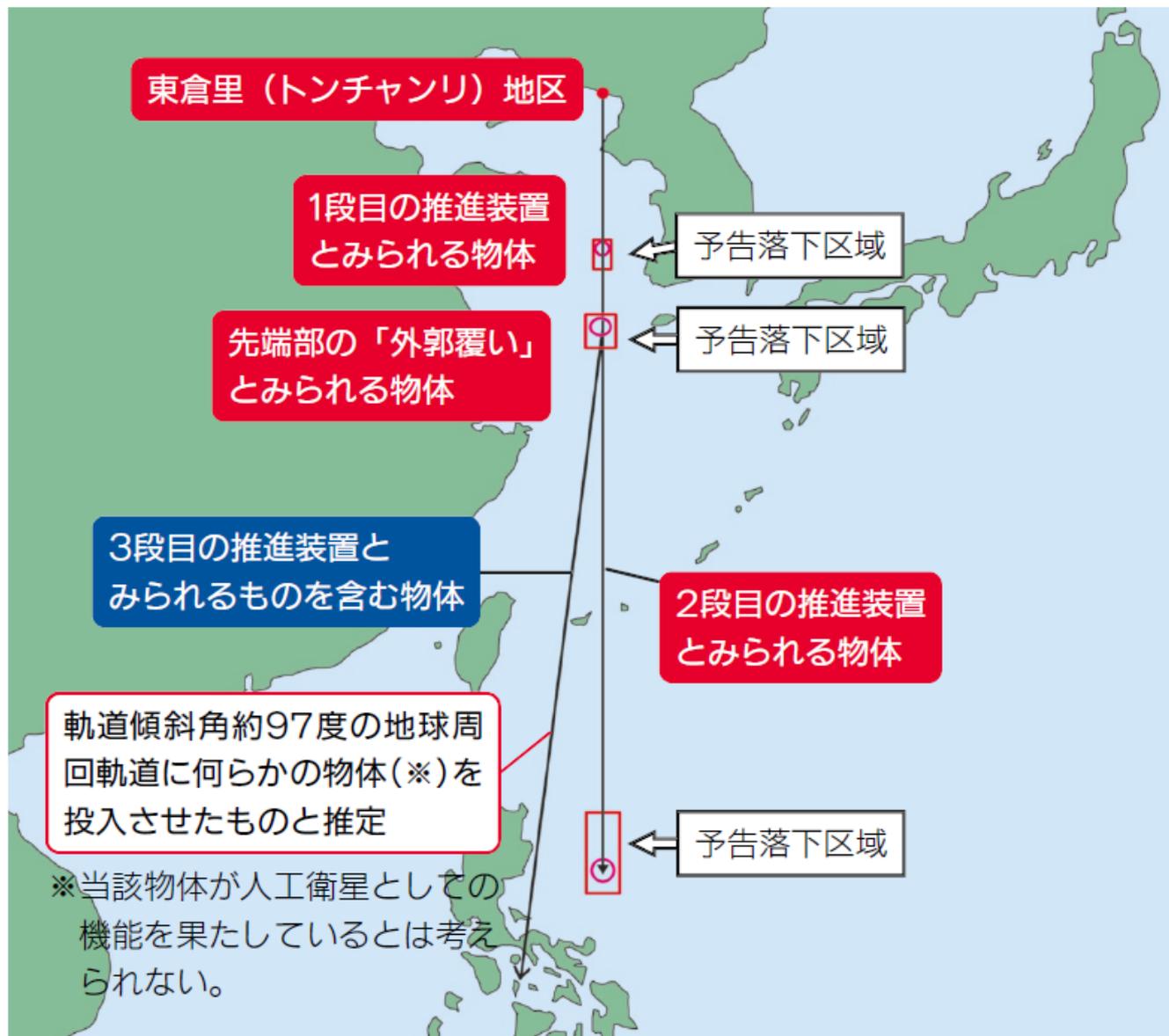


(出所) 防衛省

(出所) 防衛研究所『東アジア戦略概観2012』230頁、図7-2。

- 第4章 朝鮮半島——経済強国へと始動する「核保有国」
北朝鮮と積極的抑止能力を追求する韓国
- ◆ 北朝鮮——経済強国への始動
 - 「核保有国」として経済強国を目指すも、過去の事例から「改革・開放」失敗の可能性大
 - 12月発射した長距離弾道ミサイルは米国も射程圏内。核兵器小型化に成功すれば北朝鮮の核脅威はさらに深刻化
 - 金正恩第1委員長は軍指導部の刷新などを通じ軍掌握の強化に注力
- ✓ 「金正恩の軍への統制力が強化されつつある」(読売、産経、時事引用)
- ✓ 核保有国としての立場を既成事実化するため今後も核実験継続の可能性高い(産経、時事)

図 3-1 2012 年 12 月に北朝鮮が発射したミサイルの推定飛翔経路 (103頁)



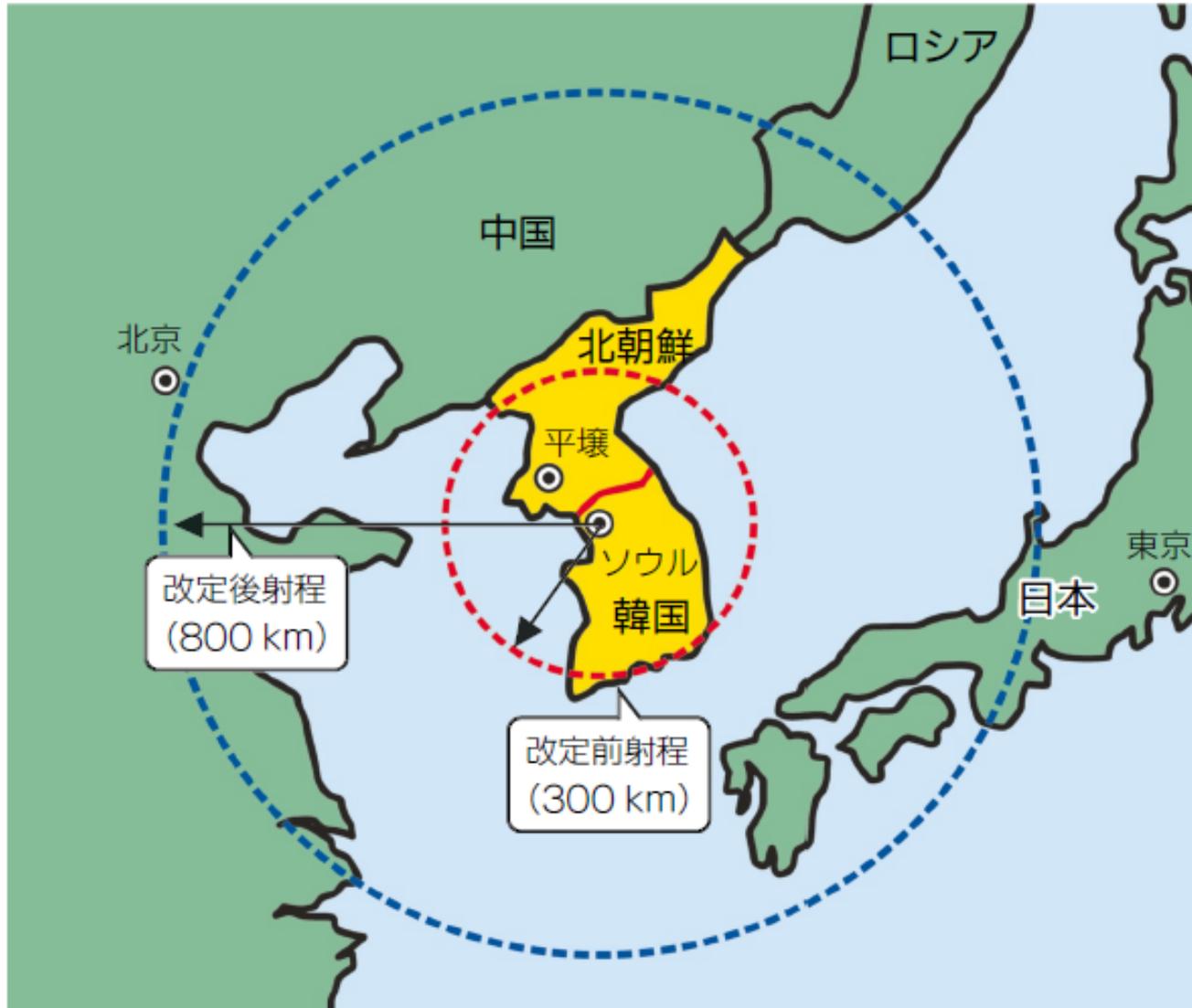
(出所) 防衛省資料。

- 第4章 朝鮮半島——経済強国へと始動する「核保有国」
北朝鮮と積極的抑止能力を追求する韓国

- ◆ 韓国——朴槿恵新政権の誕生とその課題

- 朴槿恵新政権は対米・対中関係双方を強化しつつ、北朝鮮との対話・交流再開を志向するも困難に。対日関係は慎重ながらも改善に肯定的
- 国防政策では積極的抑止能力の確保を重視。弾道ミサイルの長射程化を企図
- ✓ 「[韓国のミサイル強化で]地域や国際社会に対する韓国側の十分な説明もまた求められている」(FNN引用)

図 4-1 韓国の弾道ミサイル射程地図 (154頁)



(出所) 青瓦台発表資料より作成。

● 第5章 中国——次世代指導部を見据えた第18回共産党大会

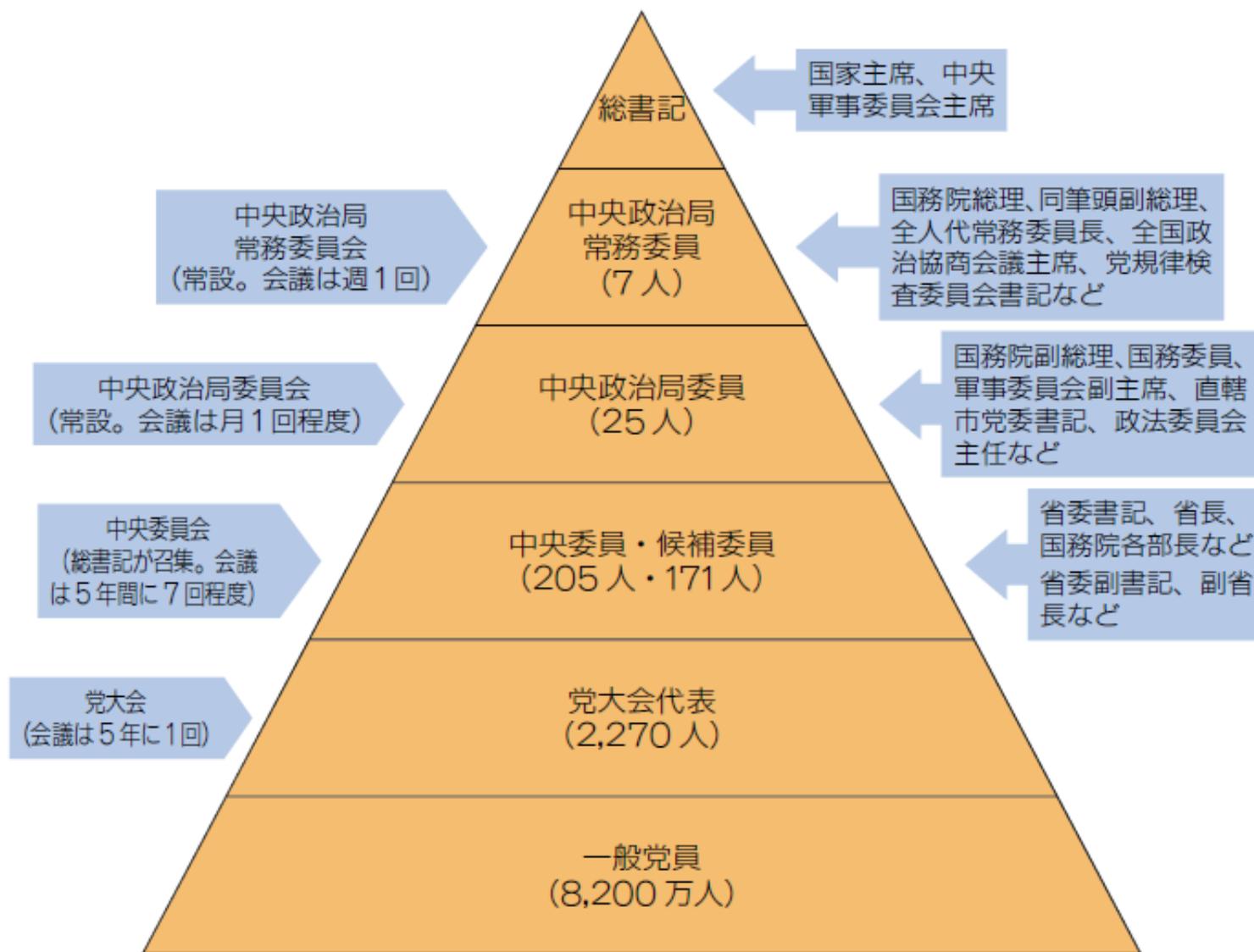
- 中央政治局の新布陣：習近平を推す江沢民派が常務委員の大半占める。次代を競う政治局委員(※)には胡錦濤派多数

※表5-1 (164頁)で全25名を紹介

- 習近平総書記は汚職根絶の決意を表明するも、党中央幹部の腐敗根絶は困難
- 米「アジア回帰」への反応：軍事面では批判、経済的には協力関係を模索
- 解放軍：18全大会前後に大幅な首脳部人事異動。人事や訓練を通じて統合運用体制を目指す
- 日中関係：尖閣をめぐり厳しさ増す。中国は尖閣に関する主張を周到に準備
- 中台関係：経済貿易のみならず、文化面での協議が模索されるなど交流深化

- ✓ 「中国、周到に準備」(産経見出し。以下同)、「[尖閣で]不測の事態も」(読売)、「中国の日本侵入『継続の可能性』」(日経)、「尖閣支配『中国が突き崩す』」(時事)、「日中海洋機関の会合を」(毎日)、「周辺国との摩擦中国は恐れず」(東京)

図 5-1 中国共産党の権力構造ピラミッド (171頁)



(注) 上部委員会に所属する者はそれよりも下部の委員会の成員でもある。

(出所) 執筆者作成。

(参考) 中国の党・軍・政府関係図及び四川大地震における指揮命令系統

図2 中国における党・軍・政府関係(概念図)

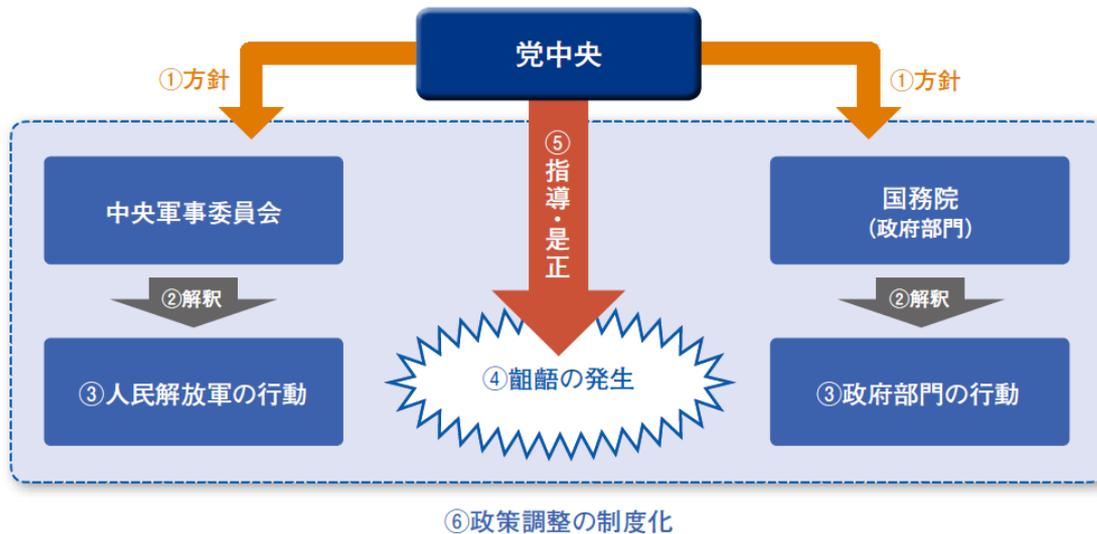
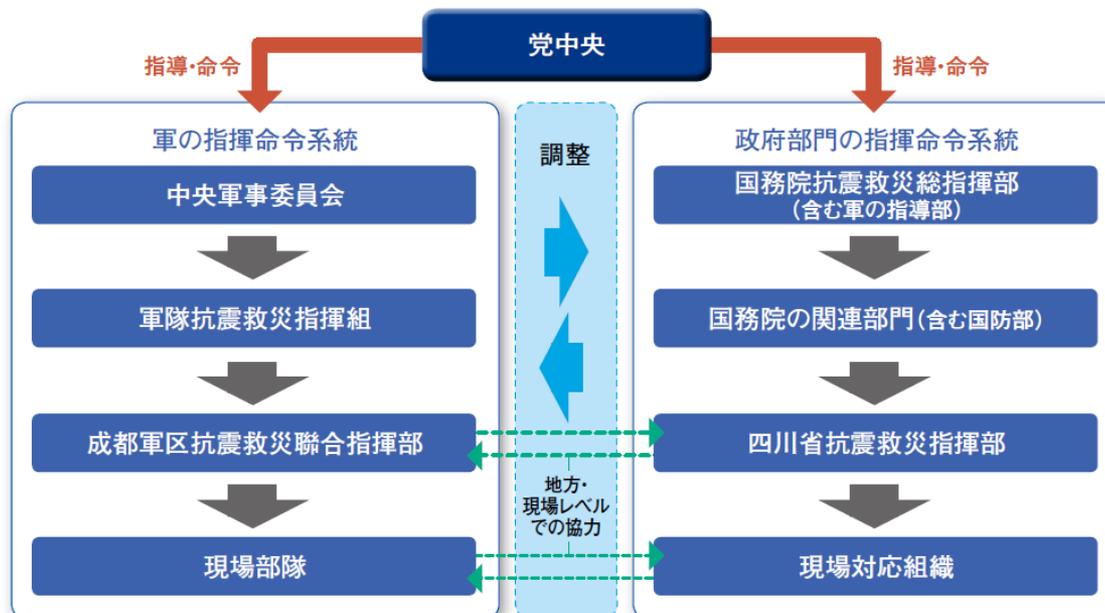


図3 四川大地震における指揮命令系統

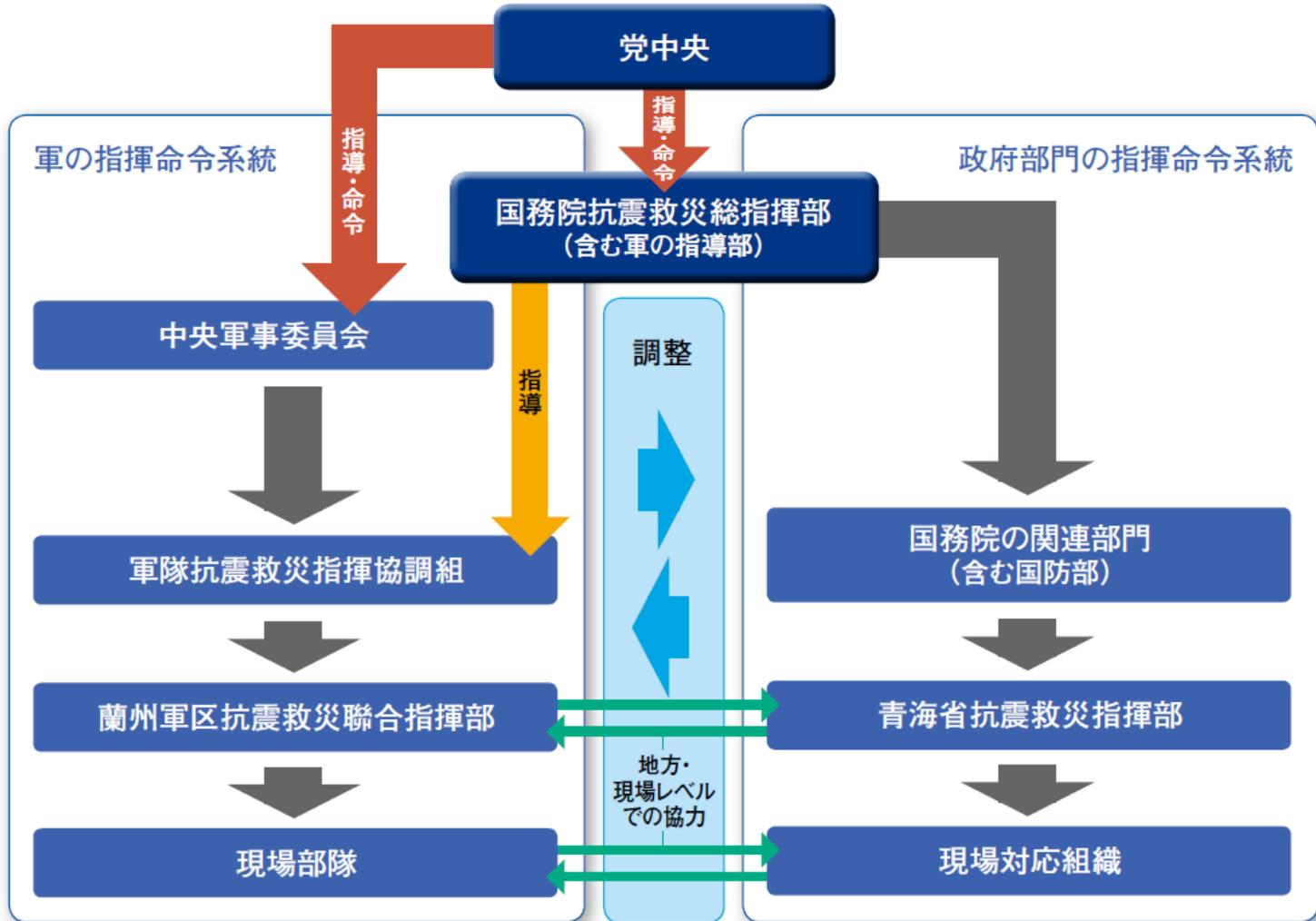


(出所)「解放軍報」など中国の各種報道より作成。

(出所)防衛研究所『中国安全保障レポート2012』15,21頁、
図2及び図3。

(参考) 四川大地震における中国の指揮命令系統

図4 青海省地震における指揮命令系統



(出所)「解放軍報」など中国の各種報道より作成。

(出所)防衛研究所『中国安全保障レポート2012』22頁、図4。

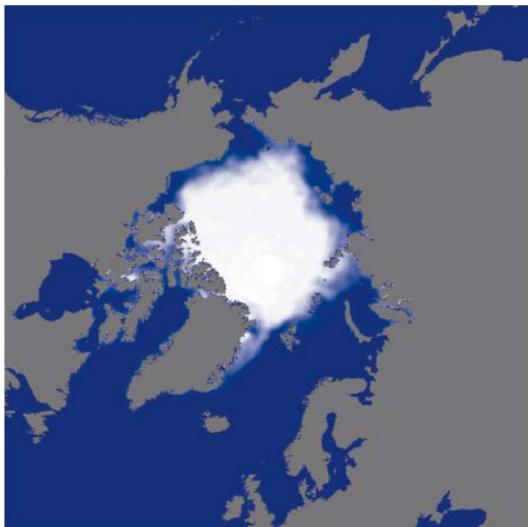
● 第6章 東南アジア——米国の関与の強化とASEAN

- ミャンマー: 政治改革が進展し対米関係は改善。少数民族問題が不安定要因
- 南シナ海での領有権めぐりフィリピン、ベトナムなど域内国と中国の緊張が継続。中国の対カンボジア関係強化によりASEANの一体性保持に懸念
- 米国のアジア太平洋へのリバランスに対し、歓迎と懸念の交錯する東南アジア各国の複雑な反応
 - タイ: 同盟国ながら慎重な対応
 - シンガポール: 戦略的・経済的利益の両立
 - インドネシア: 米中均衡、ASEANの戦略的自立性維持
- ADMMプラスは進展。ただし非伝統的安保分野での協力が伝統的安保問題を改善するかは不明瞭

● 第7章 ロシア——第2次プーチン政権の対中認識とアジア重視

- 国防産業活性化のために国防費が増大。フランス、インドとの軍事技術協力も進展
 - 中国との対等な関係維持が難しくなり、中露戦略的パートナーシップの内実は複雑化
 - 中国の北方への海洋進出に対し、北極・極東地域で海軍を強化。日米に対しても海洋安全保障協力を要請
- ✓ 「中国船、北極海を航行 警戒強めるロシア」(北海道新聞見出し)
 - ✓ 「オホーツク海に…新たな戦略的価値」(産経引用)、「北方領土の軍事的価値高まる」(道新引用)、「中国の海洋進出が将来的に北方にも広がるとの認識が、日本との海洋安全保障協力を求める誘因に」(東京引用)

図 7-8 北極海の海水分布 (256頁)



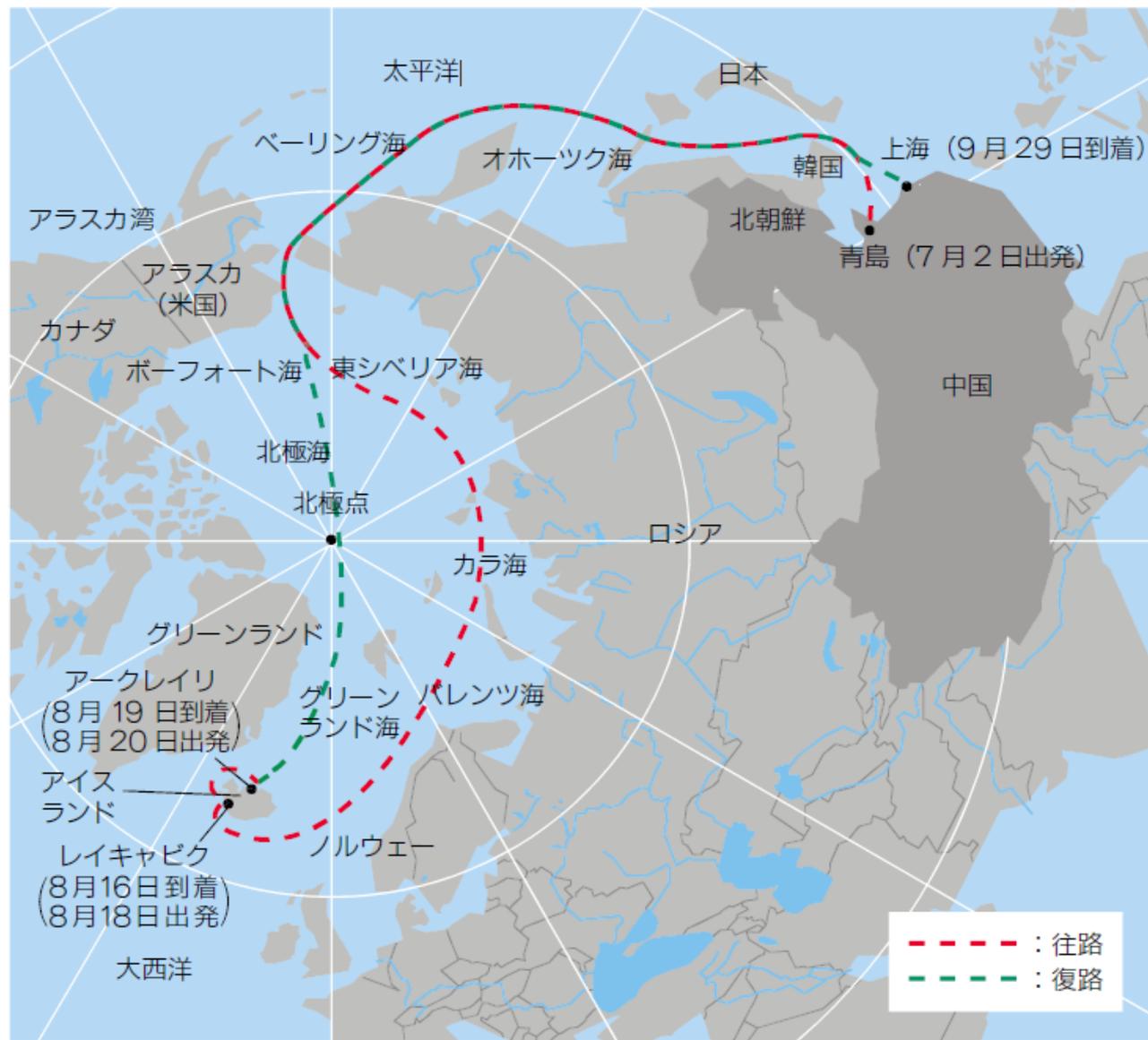
1980年代の9月最小時期の平均的分布



2012年9月16日

(出所) 宇宙航空研究開発機構。(c)JAXA

図 7-9 中国第5次北極探査における砕氷船「雪龍」の予定航路 (258頁)



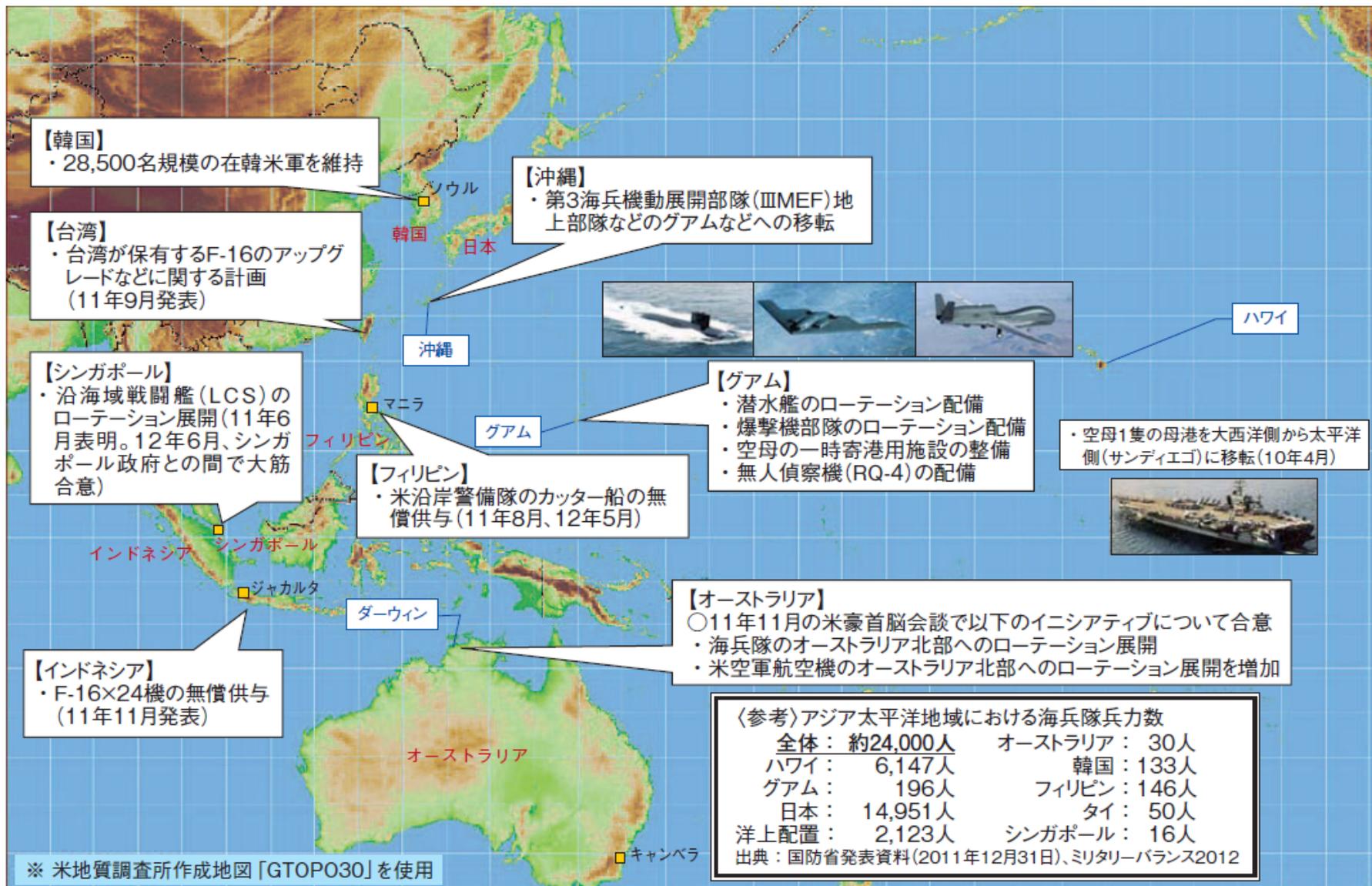
(注) 当初の予定航路であり、帰路は津軽海峡経由に変更されている。

(出所) CHINARE5 ウェブサイトより作成。

● 第8章 米国——オバマ第2期政権の挑戦と課題

- 連邦債務や社会保障費の増大傾向の下、グローバルな安全保障コミットメントと、利用可能な資源配分とのバランス維持が課題
 - アジア太平洋リバランスの一環として、フィリピンやベトナム、インドネシアといったASEAN諸国、インドなどとの関係を強化
 - シンガポールへの沿海域戦闘艦(LCS)のローテーション配備、オーストラリアへの海兵隊のローテーション展開などを通じ、アジア太平洋への戦カシフトと東南アジア・インド洋でのプレゼンス強化を推進
 - 南シナ海問題解決に向けた国際ルール形成と、国連海洋法条約批准に取り組み
- ✓ 「財政問題による国防費削減の影響を最小限に抑えられるか、対中関係の改善ができるかなどが課題」(毎日引用)

(参考) アジア太平洋地域における米軍の最近の動向



(出所)防衛省 『平成24年度防衛白書』10頁、図I-1-1-1(一部抜粋)。

(参考)防衛研究所の情報発信



東アジア戦略概観2013

- 日本語版冊子は成隆出版より発売中（税込1,200円）
- 英語版冊子はジャパンタイムズより5月中旬発売
- 防衛研究所ウェブサイトにて日本語版、英語版ともバックナンバー含め公開



中国安全保障レポート

- 中国の軍事や安全保障について中長期的な観点から着目すべき事象を分析し広く内外に提供
- 防衛研究所ウェブサイトにて日本語版、英語版、中国語版をバックナンバー含め公開
 - 2012年版：党軍関係（軍をめぐる意思決定や政策調整）
 - 2011年版：海洋問題（海洋戦略、ソマリア沖・アデン湾での活動、南シナ海問題）
 - 創刊号（2010年）： 拡大する人民解放軍の活動と軍事外交



国際共同研究シリーズ

- 各国研究機関・研究者と行っている研究交流の成果をとりまとめた論文集
- 年1～2回刊行し防衛研究所ウェブサイトにて公開
- 最近のタイトル：
 - FOI-NIDS共同研究「隣国からの視点 日本とスウェーデンから見たロシアの安全保障」(カロリナ・ベンディル・パリン、兵頭 慎治編)
 - 第3回アジア太平洋安全保障ワークショップ「アジア太平洋諸国の安全保障上の課題と国防部門への影響」(防衛研究所)



防衛研究所紀要

- 防衛研究所研究職員の研究成果のうち現代の安全保障問題を中心に、広く安全保障問題の専門家に向けて発信することを目的として刊行
- 日本語版(年2回)及び英語版(年1回)を刊行し、防衛研究所ウェブサイトにて公開



戦史研究年報

- 戦史に関する論文を掲載するとともに、戦史史料に関する情報を掲載
- 年1回刊行し、防衛研究所ウェブサイトにて公開(一部英語タイトルあり)



戦争史研究国際フォーラム（一般公開イベント）

平成25年度（第12回）開催予定

「島嶼問題をめぐる外交と戦いの歴史的考察」

2012年はフォークランド戦争30周年という節目を迎え、イギリスでは当時の公文書の開示が始まるとともに、この戦争に対する関心が高まっています。防衛研究所戦史研究センターにおいても現在、今年度末の刊行を目標に『フォークランド戦争史』を執筆中です。他方、アジア太平洋地域における戦略環境が大きく変化する中、日本でも島嶼をめぐる紛争に対する関心が高まりつつあります。

そこで、今回はテーマを「島嶼問題をめぐる外交と戦いの歴史的考察」とし、歴史的視点からこうした問題に直面して当事国がいかに外交的に対応し、そして、必要に迫られ実際にいかに戦ったかについて分析することにより、現代の安全保障問題に適切に対応するための示唆を得ることを目的とします。

- 日時：平成25年9月25日（水）
- 場所：未定（東京都内）
- 聴講申し込み要領は7月中旬に防衛研究所ウェブサイトにて案内予定



安全保障国際シンポジウム（一般公開イベント）

- 平成25年度（第16回）は開催準備中
- テーマ・日時・場所、聴講申し込み要領は順次、防衛研究所ウェブサイトにて案内